

INTERNATIONAL ERIC NEWSLETTER

No.5

FEBRUARY 1991

エリック ニュースレター

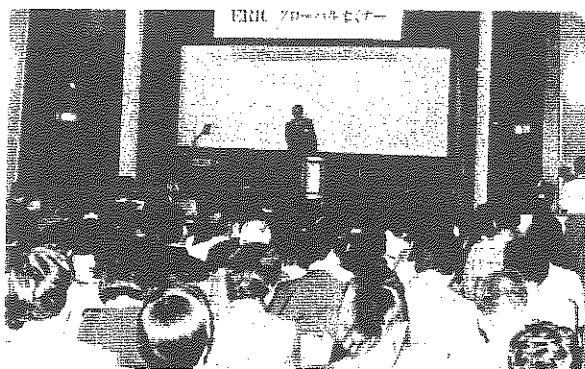
国際理解教育・資料情報センター International Education Resource & Information Center

特集：第1回ERICグローバル・セミナー

昨年10月17日～21日、ERICの設立記念イベントが関東地方の8ヵ所で開かれました。講演会「地球時代の教師の役割」(学士会館)を皮切りに、各地で開催された研修会「海外の国際理解教育の実践に学ぶ」。どの会場も熱心な参加者で満員でした。小・中・高等学校の教師、教育委員会の指導主事、社会教育の指導者、民間団体のスタッフ、主婦、学生…と顔ぶれは実に様々。参加者数はのべ510人にも及びました。

○講演会(17日)

ERIC設立の紹介の後、4人の日本人講師が、国際理解教育への期待と提言を異なる立場から語りました。休憩時間にはベンガル音楽の生演奏と歌が流れ、場内は和やかな雰囲気に…。会場後部の展示即売コーナーでは、珍しい外国の教材などに興味を示す人が多く、たくさんの方の注文がありました。後半は、「国際理解教育の日本比較調査」の報告に続いて、二人の海外講師が自国における取り組みを具体的に紹介し、今後の日本における実践の鍵となりそうな指摘を残しました(2～4ページに抄録)。参加者からは「講師が多方面からで様々な色がでていた」「他国の現状から国際理解教育の到達点がわかった」という一方で「もう少し時間の余裕がほしかった」という声もありました。ERICでは、この成果を今秋開催の第2回グローバル・セミナー(詳細は別紙折込チラシを参照)に生かそうと努力を続けています。



○研修会(18～21日)

YESと平和教育全国研修会を除き、いずれも参加者が生徒の立場で体験する模擬授業の形で行われました。

日	主催・後援	講師
18日	茨城県教育委員会 東京都地理教育研究会 東京都中学校社会科教育研究会	R・フリーマン J・ハント R・フリーマン
19日	横浜国際理解教育研究会(YES) 神奈川県教育委員会 YMCAアジア青少年センター	R・フリーマン R・フリーマン J・ハント
20日	平和教育全国研修会 NGOワークショップ実行委員会 全国海外子女教育研究協議会	J・ハント J・ハント R・フリーマン
21日	埼玉県自主研究グループ 全国高等学校国際教育研究協議会 埼玉県国際理解教育研究協議会 浦和YMCA・JANIC	R・フリーマン R・フリーマン R・フリーマン R・フリーマン

※この講演会・研修会には、豪日交流基金と庭野平和財團に助成いただきました。



国際理解教育を根づかせるには ロバート・フリーマン



米国での国際理解教育の歩みは極めてゆっくりしたものです。この20年の間にも多くの課題に直面してきました。日本の皆さんのがこうしたわたしたちの経験に学ぶところがあると考えてくださるのは大変嬉しいことです。

わたしは、すべての人々に衣食住、教育、自由、人権、安全な環境が保証されるような、もっと平和な世界にするために何かしたいと思い、国際理解教育に携わるようになつたのですが、当時の問題は、複雑な世界を扱うための基本的な理解が殆どないこと、国際理解教育は学校に何か国益に反するものをもちこもうとしているのではないかと考える教師が多いことでした。日本も、これと似た状況があるのではないでしょうか。学校教育に変革を求めるとき、往々にしてあらぬ疑いをもたれたり、誤解を受けたりするものです。そこで、これに対応するためにいくつかの提案をしたいと思います。

○三つの課題

第一の課題は、自己の社会の価値観に根ざした土台を築くことです。自己の社会の価値観を見直し、その中で異論のない社会を支える基本としての価値は何であるかを明確にすることが必要です。たとえば、米国では、個の尊厳、言論の自由、平等、民主主義がこれに当たります。こうした価値観を明らかに位置づけることで、それぞれの教師の、世界や国際理解教育に対する理解、新しいものに接する姿勢をすべて尊重し、それに合わせて手法や教材を開発する方法をとりました。尊重こそ人々の理解と協力を勝ち得る鍵であることをわたしたちは経験から学びました。

第二の課題は、国際理解教育の基本的理念を明確にすることです。基本的理念は、わかりにくいものであってはならないと同時に、価値観が多様な現代社会でも説得力を持てるような広い見識を備えたものでなくてはなりません。こうした理念や技能こそ、こどもたちにとって、一度身につければ一生忘れられず、細かい知識は思い出せなくなつても人生の指標となり複雑な問題を解決するのに役立つものです。現時点では、私たちは特に以下の6つを重要視しています。教科や日常生活で実践することによってはじめて身につくものなので、現行のカリキュラムの学習内容を深めるのにも非常に効果的です。

①ものごとが起こる背景・状況を明らかにする

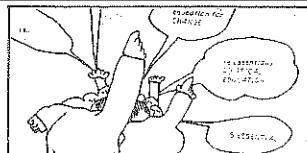
できごとは氷山の一角に過ぎません。例えばイラクのクウェート侵略にも膨大な歴史的背景があります。ニュース番組が報道するのはハイライトだけなので、視聴者自身にある程度の知識がなければ、かえって誤解を招きやすいのです。こうした現状でも、教師は、こどもたちの目を常にものごとの背景に向けることによって、全体的な流れの把握がいかに大事かを理解してもらうことができます。例えば、こどもたちが今日学んだことが、空間的・時間的・文化的状況の中でどのような位置にあるか、一緒に考えるとよいでしょう。

②世界の文化的状況と、これに変化を生じさせている力を理解する

人間の考え方や行動は文化的状況の影響を受けていますが、文化的状況の様々な要素を規定するのも人間の価値観や行動です。一方で、世界情勢の変化による影響力もますます強まっています。地球に芽生えた様々な文化について学ぶことは、こどもたちにとって、自分の文化の限界を知り、同時に問題を解決する可能性をひろげます。また、何が世界に変化を生じさせているかについて考えることは、白黒が簡単につけられない状況に耐え、世界を破壊する変化に抵抗できるような価値観を習得することにつながります。

③自分の視点と他の人たちの視点を認識する

世界の人々が人間らしく共存するためには多様性を受け入れなくてはなりません。争いは、異質なものを排斥しようとしてすることから始まる場合が多いのです。



こどもたちは、どんな人にもそれぞれ独自の考え方や経験があり、みんなが少しずつ異なっていて、この違いがあるからこそ自分たちのひとりひとりがかけがえのない存在であるということを、例えば、同じ絵や物語からどんな感じを受けたかについての話し合いの中から次第に感じしていくことができます。

④人やものごとが相互に関連し合うことを認識する

こどもたちは、例えば日常生活の見直しなどから人間の社会だけでなく自然の中でもすべてが相互に影響し合うことを深く理解することができます。

⑤対立の存在を前提として解決のために努力する

個人や国家が時に対立するのは、利害や価値観が多様であればきわめて自然なことです。対立の解消には暴力的なものから平和的なものまで様々な形態があります。対立に対処することもたちの能力を培うには、歴史や文学の中での対立の解決方法を検討したり、自分自身の生活の中の問題を考えたりすると効果的です。

⑥問題解決の技能、客観的思考の技能を習得する

事実と意見を混同しない、影響の大きさを判断する、仮説を検証するといった思考的技能は、解決策を考え話し合いを通してよりよいものにしていくためには不可欠です。

以上の概念は、特に目新しいものではありませんが、常に地球規模という観点から考えるところに特徴があります。

第三の課題は、教育システムの中に、上のような理念を取り入れ、質をさらに高められるようなしくみをつくることです。わたしたちの体験では、立場を超えた協力、特に現場の教師と民間団体の連携が最も効果的なようです。自分たちの限界や異なる立場からの情報の重要性を認識し、大学や研究機関、行政や地域で活躍する人などにも働きかけ、協力体制をつくって取り組んでいくことが必要なのです。

皆さんに、同じ志をもつわたしたち米国の仲間と連絡をとりあい、お互いに相手の成功や失敗から学べるように、と願っています。教育に携わる世界中の人たちと手をつなげば、わたしたちは、この地球を今よりもはるかに暮らしやすく生きる価値のある場所にすることができるはずです。

ロバート・フリーマン

(グローバル・エデュケーターズ会長)

1931年アメリカ生まれ。1954年アンティオーク大学工学部卒業。ボーイング社でのシステム・エンジニアとしての仕事に「ミサイル設計に関わったことから疑問を持ち」市民活動に参加。1966年より「カリフォルニア国際学習」プロジェクトなど、アメリカを代表するグローバル教育推進事業を開発・運営。

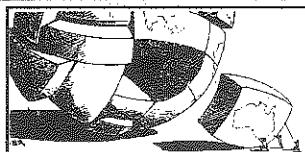
〉大来佐武郎（内外政策研究会会長）

「中曾根発言」に代表されるように、外の世界とのつきあい方について日本人の関心はまだ低い。日本の常識が外で通用するとは限らないことを知り、外国人に対しても違和感を持たず異なる文化を尊重し、「どこの人も同じ人間だ」という態度で接しられるようになるためには、訓練が必要だ。環境や経済問題など世界で協同で取り組まなければならない事業が増えていく時代に備えて、小学校の教育からその準備を始めなければならない。

〉河村真理子（公立中学教諭）

生徒の最初の反応が「先生、他のクラスではやっているんですか？」…他の人がやっていないことや新しいことに抵抗があるんですね。それでも生徒は回を重ねるうちに慣れていきます。むしろ教師の方を何とかしなくてはなりません。「国際理解」の必要性を頭では理解していても、積極的に実践する姿勢にはまだ結びついていません。国際理解教育の校内研修も、わたしの職場では「生徒のコミュニケーション能力を高めるための教材開発」と題してやっと実現しました。各教師が必要性を身体ごと実感できるような機会を提供することも大切です。





子どもが主役の教育を ジャネット・ハント



オーストラリアも日本と同様、地球時代にふさわしい教育が実現するまでにはまだ長い道のりがあります。両国の問題は似ています。例えば、先進国が発展途上国を援助していると考えがちですが、実際には1982年の債務危機以来、有償援助の利子返済などのため、南から北へのお金の流れは北から南への流れを上回り、その差は年々広がるばかりです。わたしたちは自国の影響力の大きさを自覚し、国際社会で果たす役割について考えなければなりません。

○オーストラリアの学校教育

オーストラリアでは、州ごとの文部省が指導要領やカリキュラムを作成していますが厳格ではなく、各学校でかなり柔軟に実践できます。これは長短両方で、国際理解教育も、関心がある教師にとっては実践しやすいですが、関心がない教師は見向きもしません。

1989年4月、各州の文部省が共同で『学校教育の目標に関する合意』を発表しました。この中に、例えば、バランスのとれた開発と地球環境についての理解、倫理や社会正義に関わる問題を考える力など、国際理解教育と共に目標がいくつもあったため、かなり推進しやすくなりました。現在、わたしたちの組織は他の海外援助団体とともに、この声明に基づく形で、カリキュラム開発、教師の研修会開催、教材作成など、全国的なプログラムを取り組んでいます。数年間かけて多くの教育関係者が協力し合うことが不可欠ですが、今こそ必要なステップだと確信しています。

○学習指導要領の書き換え

オーストラリアの民間団体の最近の活動で重要なのは、教員組合、教科調査官と協力して、学習指導要領の書き換えを中心・高等学校のものを中心に進めていることです。ビクトリア州などでは既に実績もあります。指導要領に地球的な視野が示されれば、教師も自然に授業を取りくむことになります。

国内外の様々なテーマが現行のカリキュラムにどのように取り入れられるかについて、数年前ビクトリア州で行われた研究は、例えば、芸術の科目では異なる国々の芸術や社会的表現としての芸術、商業経営学では分配と公平、地域経済と世界経済との関係、労働と科学技術、国語では異文化の文学、社会の変化や社会正義についての書く力・話す力・報道にふさわしい表現力、数学では富の分配や貧困、貿易・人口・食糧の分配などの統計を扱う力といった形で、カリキュラム全体で扱えることを示しています。

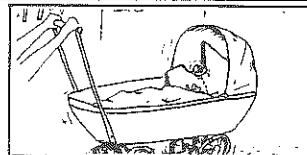
○教材開発

前述の研究では、当時の教科書や副読本に人種差別、女性や第三世界を蔑視する傾向があることもわかりました。そこでわたしたちは指導案とスライドのセットなど望ましい教材の準備にも力を入れています。音楽、ロールプレイ、直接体験、グループディスカッションなど、自分で考えみんなで行動する形が最も効果的です。たとえば寄付金集め、植林、リサイクル活動などに参加することで、こどもたちは多くを学びます。

○アフリカ村

パース市で「アフリカ村」という斬新な試みが始まりました。海外援助団体が、こどもたちとの協力でアフリカ式の家を三軒建てたのです。こどもたちは、実際に泥のレンガで小屋を建て、わらで屋根をふく作業をすることでアフリカの気候を実感することができました。その後も、食べ物、農業、音楽、衣服、生活様式などについて野外教室が続いているし、フィリピンやインド式の家も建ち、様々な学習に利用されています。

演劇も非常に効果的な学習方法です。パースのこどもたちは『オンポンピングの村』という劇にとりくみ、開発問題を学びました。クイーンズランドの高校生グル



私は観光をテーマとする演劇にとりくむ中で様々な問題点を学び能力を高め、発表を通して自信もつき、教師、親、他の生徒たちの関心も深めました。演劇のよい点は、異なる人の立場でものを感じる機会となること、低学年のこどもたちも参加できることです。こどもたちの心の柔らかさは12~3才頃がピークであるという調査結果もあります。いったん固定観念ができてしまうとそれを変えるのは難しいことですから、小・中学生の段階でなんらかの手をうたなくてはなりません。

自分たちの生活と他の人々の生活のつながりを実感できるようにすることも重要です。たとえば、板チョコ1枚、箸1膳がどのようにわたしたちと世界を結びついているか。一つの物から、相互依存の世界でわたしたちが消費者として果たしている役割について包括的な調べ学習ができます。

一方、こうしたことを教師が学ぶ機会も必要です。教育実習生や現場の教師の研修には民間団体も協力していますし、6つの州には地域の教師のためのセンターがあり、資料室、授業用の展示セット（生徒に配るプリントなども）、ビデオ、派遣講師などを備えています。

○基本理念

国際理解教育にとって最も基本的な理念をまとめると、「相互依存」「社会正義」「変化」「行動と参加」となります。わたしたちが目指すものは、異文化・人権教育等と同様、単に知識を伝えることではなく、望ましい社会を作り上げること、そのために必要な技術をこどもたちが身につけていくことです。イスラの高校生の調査では、こどもたちは、現実を知らされるだけでは問題の大さきや複雑さに圧倒されてしまうことがわかっています。自分自身の価値観をふまえて問題に対処する方法も教えなければ、こどもたちをかえって苦しめることになってしまうのです。

○教師と民間団体との協力

日本でもオーストラリアでも、重要な役割を担うのが教師と民間団体です。民間団体の知識や体験は教師にとってかけがえのない情報源ですが、実際に現場に変化を

もたらすには教師が先頭に立たなければなりません。教師と民間団体が一つの目的の下に力を合わせてこそ効果があるのです。オーストラリアにもまだ多くの課題がありますが、これを機会に日本の教育関係者と対話を続け、責任ある地球市民を育していくためにお互いの体験を分かち合っていきたいものです。

ジャネット・ハント（オーストラリア海外援助協議会 教育担当ディレクター・事務局長代理）

1948年イギリス生まれ。ケンブリッジ大学教育学部卒業。イギリスの小学校で教鞭をとった後、「新しい世界が見たくて」オーストラリアへ移り住む。高校教師、大学講師、教育委員会の指導主事などを経て、1985年から現職につき、環境、開発、人権、平和等に関する意識高揚に貢献。

› 原ひろ子（お茶の水大学教授）

「まず自国理解から」「環境問題も」「外国人を思いやる心」「異質なものを受け入れる態度」「グローバルな視点」。。。国際理解教育をめぐってよく耳にする論議です。交流体験も方法に工夫が必要です。これまで、前からわかっているやり方で、できるものどうしだけで、ものごとを進めてきました。これからは、思いやりだけでなく異質なものと共生する中で違うものを違うものとして味わい、異質な人と対決し、それを楽しむ心のゆとりをもつことが大切です。教師ももっと海外経験をもてるよう、現地の生活を味わう体験旅行を教育研修の一環としたり、PTAの理解を得るために予算をあてたりといったお金の使い方もあるのではないでしょうか。

› アンケート調査：日加比較

国内での調査結果の分析を中心に、カナダで行われた調査結果との比較を加えて、現在の日本の国際理解教育の実態を、よりよい国際理解教育の実現のためには何が必要かという視点から理解しようと試みました。

（詳細は報告書を参照ください。）



国際理解教育授業を実体験！ 教師もまずは生徒になって

19日夜（PM6～9）、都内で開催されたセミナーは、小・中・高の教師、社会教育関係者、学生など20数名の参加を得た。講師のジャネット・ハント先生の自己紹介の後、さっそく体験授業が始まった。

○名札ゲーム（20分）

まず、初対面の緊張をときほぐす「名札ゲーム」から。「名札に自分が今一番関心をもっている国や地域を書いてください。同じ地名の人どうし集まって、なぜその国に関心があるかを話しあってみてください」というハント先生の指示に室内は一度に活気づいた。まもなく中国、北アメリカ、東南アジア諸国…と、グループが教室のあちこちにできた。関心がある理由も様々で、「はい、やめてください」の合図までには、お互いの自己紹介もすっかりすんで和やかな雰囲気になった。

○グローバル・bingo（20分）

続く「グローバル・bingo」ではめいめいbingo表を手に質問事項に該当する人を探す（ERICニュースレター4号「地球bingo！」参照）。「海外のロックバンドの名前が二つ言えますか？」「朝ごはんに外国でとれたものを食べましたか？」「アジアの人の名前が三つ言えますか？」といった質問を次々と違う人に投げかけて、該当した人の名前を表のマス目に書き込んでいく。「名札ゲーム」のおかげで和気あいあいの中、意外と早く「bingo！」の一聲が出た。「bingo」をかけた人が各質問事項と該当者の名前を発表する。「身につけている衣類に外国製のものがありますか？」〇〇〇さん呼ばれた人は立ち上がり「韓国製のブラウスですから…」と説明する。ふだんは指示を与える側の先生方も、世界とつながりをもつ人が意外に多いこと、からだを動かして学ぶ楽しさに気づいたようだ。

○豊かな国と貧しい国（20分）

次に、オーストラリアの開発援助について、OHPを使って説明があった。先進国では、ODAが発展途上国の援助に役立っていると考えられているが、実際のお金



の流れは、債務の利子のせいで「ない国」から「ある国」へ一方的に流れていることが統計グラフからわかる。こうした「ない国々」と自分たちとはどのようにつながっているのだろう？…今度はポスターを使って「貧困をめぐる悪循環」と「わたしたちの暮らし（家）の中の国々」が説明される。参加者の真剣な目と熱心な質問から「より多くの知識」「正しい知識」の求められていることがうかがわれた。

○もしもわたしがあなたなら（30分）

次はグループワーク。まずは、2人のペアで作業。お互いを十分に知り合うことから…プリント「わたしはどんな人間なのでしょうか」を手に、まず片方の人が相手に質問する。名前、衣類・食べ物・遊びなどの好みから、気持ちや価値観にふれることまで様々な質問がならんでいる。「もし過去か未来のどちらかで生活しなければならないとしたらどちらにしますか」「どんなときに笑いたくなりますか」「一番好きになれないのはどんな人たちですか」など、これまでに考えてみたこともないような問い合わせもあり、自分自身を改めて振りかえるきっかけとした人もいたようだ。全部の質問に答え終わったら、役割を交替する。この後、4人（2組）が集まってめいめいが自分のパートナーになったつもりで「わたしは〇〇〇です。…」と「自己紹介」する。身振、表情、話し方などを工夫している人もいる。最後に、全体でこの作業を振りかえる。「パートナーになりかわって話をするのはどんな気持ちでしたか」「パートナーが自分の振りをしているのを見てどうでしたか」「他の人を見ていて何に気づきましたか」というハント先生の質問がポイントになる。共感=相手の立場になりきることの意味が問われた。



○わたしはアフリカの女性です（30分）

今度はイラスト中の人物になったつもりで「自己紹介」する活動。あるアフリカ女性の一日を4つの場面でとらえたプリントが二人に一枚ずつ配られる。皿洗い、子どもの世話、畑の農作業、水くみに他の女性と連れ立って出かけていくところ。まず一分間ほど、めいめいこの女性になったつもりで、一日の生活、これまでの人生、現在の思い、将来などに思いをはせてみる。つぎに、二人一組でお互いに「自己紹介」する。二人の「自己紹介」の後は全体での話し合い。「何か気づいたことは？」という問い合わせに、積極的な答えが返ってくる。小学校の男の先生は「わたしにとっては女性になるということ自分が異文化体験ですから...」と国との違いにこだわらない異文化のありかたに注意を向けた。別の先生は「最初はつらい生活を想像したけれど、楽しいことがないのかなと考えてみたら、水くみに行く途中は世間話をしたりして結構楽しいんじゃないかなと思ったんですけど...。」これに対して、ハント先生から「水くみ作業を楽にしようと水道を引いたらおしゃべりの時間がすっかりなくなってしまった、というケースが実際にあります。この女性になったまで援助問題について考えてみましょう。日本から視察に来た援助団体に何を求めるか。農作業を楽にするための大型トラクターを導入してあげようかと言われたらどう答えますか」と発問があり、「与える側」でなく「与えられる側」の立場で「開発」「援助」について考える体験となった。



○変革へのプロジェクト（30分）

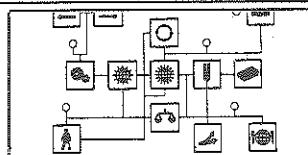
最後は、未来のため「よりよい世界にするための計画」を検討するグループワーク。各グループが財団の予算委員会だという想定で、プリントの4つの計画案に予算（百単位）をふりわける。「誰が恩恵を受けるか？恩恵を受ける人の数が一番多いと予想される計画案はどれか？」を考慮しながら、グループで結論を出してください」との指示に、各グループとも議論が白熱した。（4つの計画案は ①「宇宙船地球号」バスーバスで全国巡回しながら世界の貧困問題について啓蒙活動を行う劇団が、そのための新しい映画を購入する②「何でも自分でやってみよう」農場—失業者に自給自足の手段を教えるための農場が、必要な道具を購入する③平和の広告—平和推進のポスターを自主製作するグループが、宣伝レターを発送する④未来の家—古い家を改修してできた省エネルギーや再利用などを最大限に活かすモデルハウスが、公開に必要な展示物をつくる。）まだまだ話し足りない雰囲気で、「決められた時間で納得できる結論を出すのは難しい」「答えの決まっていない問題を扱うことは難しい」といった感想が聞かれた。この活動のねらいとして、「問題だけを教えるとこどもたちは事態の重大さに圧倒されてしまう。よりよい世界にするために自分たちもできることがあると気づかせるには、シミュレーションで体験するのが効果的。答えは一つとは限らないと気づくことも大切です」と説明があった。

○参加者からひとこと

「国際理解教育ということで英語を話さなければならないということに抵抗がありました。その点、今日の内容は具体的にわかりやすく、すぐにでも授業に使えそうです。」
（小学校教諭）

「こどもたちだったらどういう反応を示すか、こんなふうに活用したらいいんじゃないかななどイメージと意欲がわいた。」
（青少年社会教育指導者）

「知識注入式ではなく考えさせる、話し合わせる授業方法にとても興味を覚えました。グループワークは、グループの中でどういう位置を占めている意見かを把握し相互に批判できるので、学習効果を高められる。」
（高校教諭・地理）

**事例1：****明りをつけよう：懐中電燈を使って**

ねらい： 単純な組み立て作業を通して「システム」と「モデル」の概念を学ぶ。社会の相互依存性を理解するのに、個人や集団の行動基盤となる「システム」の概念は極めて重要である。どんな「システム」も、本来のありかたで機能するかどうかはそのシステムの構成要素ひとつひとつのかかっている。インフレ、食糧・エネルギー不足問題、戦争・革命といった現代社会の問題、あるいは学校・地方自治体・家族のかかえる問題などを考える上でも重要な視点である。

時間：60分

準備するもの：懐中電燈（5～6人につき1個）、

封筒（グループ数分）

懐中電燈の部品を全部ごちゃごちゃにして、適当に分けて封筒に入れる。このとき、重要な部品（電池・電球など）をいくつか除き、どのグループの懐中電燈も点灯しないようにしておく。

展開：

- 1 各グループ（5～6人）に封筒を配り、次の質問に答えてもらう（時間の都合により筆記か口頭で）。
 - a. あなたのグループに配られた部品は何ですか。
 - b. aの部品にはどのような役割や目的がありますか。
 - c. bで答えた役割や目的をはたすためには、他にどんな部品が必要だと思いますか。
- 2 「では、組み立ててみましょう。いろいろな部品がいっしょに働くことで、ばらばらの時にはなかった新しい機能を果たせるようにします。」
完成品をつくれないことに気づいたグループには、理由を考えさせる。（部品が足りない。）
- 3 「足りない部品や余った部品は、他のグループと交換できるかな？」懐中電燈を完成させる。
- 4 すべてのグループが組み立てを終え、点灯することを確かめたら、次の質問をする。
 - いくつかの部分（部品）がいっしょに作動することによって、ひとつの機能を果たしているものを一

般に何と呼ぶか？ 答え：全体、システム、組織など

・どんなシステムがあるか？（いろいろな種類の例をあげてもらう。） 答え：政府、学級、交通網など

・こういったシステムは、どんな部分からなっているか、どのように機能するか、どんな役割を果たすか。

- 5 システムの具体例とその中で人が果たしている役割をあげてもらう。

「みんなが懐中電燈を組み立てている時はどうだったかな？ 自分たちのグループだけでは、懐中電燈を点灯することができなかつたね。部品を手に入れるために他のグループ、つまり他のシステムに協力してもらわなければならなかつたね。」

- 6 各自分で作文、絵、図式のうち1つの方法を選んで懐中電燈のシステムについて説明してもらう。

- 7 全体で発表する。

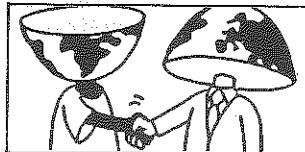
- 8 次の点についてみんなで考える。

- システムを説明するための文、図式、絵、模型などを一般的に何と呼ぶか？ 答え：モデル
- なぜシステムのためにモデルを作るか？
- 一般的なモデルにどんなものがあるか？
- モデルは何のために使われるか？

○参加者からひとこと

「『懐中電燈』はよかったです。いつもキットで買い、何の疑いももたずに完成させている中で、『部品』というアイディアはいただきだ!! 交渉しながら完成させるというのもいただき。これを応用して何かできそう。ここに来ている人の多くが今までの授業形態から脱却し、異なった視点でのものを見たいと思っているのではないか？『ドキッ!!』とする教材を。教師が驚かないと子供は当然驚かない。」

（小学校教諭）



事例2：

貿易と国づくり

ねらい：・「地球社会」という概念を理解する。

- ・地球社会の相互依存性を理解し、平和な世界を実現するにはどの国も協力して問題の解決に当たらなければならぬことを知る。
- ・地球社会のシステムでは、どんな変化も互いに他に影響を与えることを知る。
- ・資源利用に際して、目標、価値観、主張の違いから対立が生じることを知る。
- ・資源獲得競争激化で国家間の文化の違いによるコミュニケーションが問題となりうることを知る。

準備するもの：課題プリント（各班1枚）、鉛筆（2）、封筒（4）、はさみ（3）、紙クリップ（20）、のり、ものさし（1）、マジック（2）、A4用紙：赤（4）・黄（5）・緑（3）・白（3）青（5）・金（3）
上記のものを下のように4つの封筒にわけておく。

- 封筒① はさみ（2）、ものさし（1）、鉛筆（2）
紙クリップ（20）、A4用紙：赤と白（各2）
- 封筒② はさみ（1）、のり、A4用紙：青・白・黄（各2）
- 封筒③ マジック（2）、A4用紙：緑・黄・青・赤・金（各2）
- 封筒④ A4用紙：緑・黄・青・赤・金（各1）

展開：

- 1 こどもたちを4グループ（各4～6人、人数が多いときは4グループ×2）に分け、各グループに封筒とプリントを配る。「合図があるまで封筒を開けてはいけません。まずプリントを読んでください。」
- 2 「封筒の中身はグループによって違いますが、課題プリントは全部同じです。」
- 3 作業開始。「課題のとおりできたグループは知らせてください。」
- 4 教師は巡回して生徒の発言から後の話し合いのポイントとなること（不平等、自己満足、競争、思いやり

のあること、優越感、苛立ちなど）を聞き取るよう注意する。生徒からの質問には、必ず「あなたたちはどう思う？」と質問で応えること。

- 5 全グループが作業を終えたら、結果を比較検討する。
- 6 グループごとに次の点を考える。
 - ・他国の資源を得ないで課題を達成できたか。理由は？
 - ・必要な資源が足りない場合はどうしたか。
 - ・国と国との間で対立したか。その理由は？
 - ・他国とコミュニケーション上の問題があったか。
 - ・資源の分配が不平等だとわかった時、どんな気持ちがしたか。
 - ・どの資源の需要が高かったか。
 - ・課題の達成の仕方に国による幅があったのはなぜか。
 - ・すべての国が課題を達成できる斬新なアイディアは？
- 7 「地球社会」という概念を説明する。

「この活動から私たちが住んでいる地球社会についてどんなことがわかったかな。」

課題プリント：

各グループは、それぞれ一国の代表です。与えられた資源（紙や道具）を使って、必要な食糧、衣類、住居を作り、産業や教育を起こさなければなりません。

- ①食糧 黄色の紙で、10センチ×3センチの紙片を4つ作る。
- ②衣類 緑色の紙で、高さが11センチの「T」の字を作る。
- ③住居 白い紙で6センチ四方の正方形を作り、その一辺に黄色い紙で作った三角形をつける。
- ④産業 4色の紙で、4つの輪がつながった鎖を作る。
- ⑤教育 2色の紙で、4ページつづりのノートを作る。

○参加者からひとこと

「シミュレーションゲームで皆同じ条件なのに違ったものが作られたのは驚きだった。実際の世界でもその国の歴史や文化、思想などの違いによって産業、教育などの面で個性が出るのだろう。お互いの違いを認め合うことが重要だと改めて気づいた。」（高校教諭・日本史）

「『相互依存』についての理解が活動のねらいだと納得していたら、フリーマン先生はあえて『他にありますか』と聞いた。『リーダーシップのあり方』や『異文化理解』と答えた教師もあり、解答が必ずしも一つではないことに改めて気づかされました。」（教育委員会指導主事）



国際理解教育・資料情報センターとは

世界はますます狭くなっています。

私たちはだった一つの地球の住人です。

地球の未来と私たちの未来は深くかかわりあっています。

この世界とその中で起こっている様々な変化を
学校でこどもたちにどのように教えてもらいたいのだろうか?
複雑で難しい問題を適切に、しかも楽しく教えることは
できるのだろうか?

理科や体育には関係ないんじゃないかな?

国際的な視点を導入することの重要さはわかるが、準備
に時間がかかったり、他の授業にさしつかえるのは困
る!

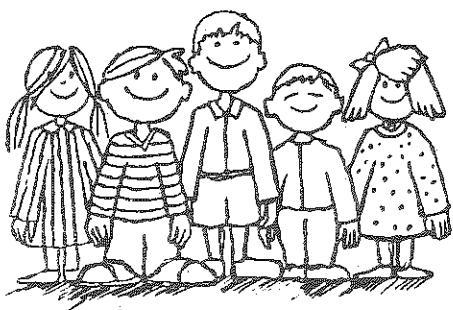
ゲストを招いて、海外の様子を直接生徒に紹介したいの
だが、どういう人が望ましいか?

また、それを単なるお話として終わらせないためには、
どのような準備をしたらいいのか?

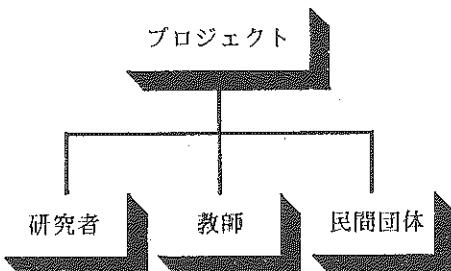
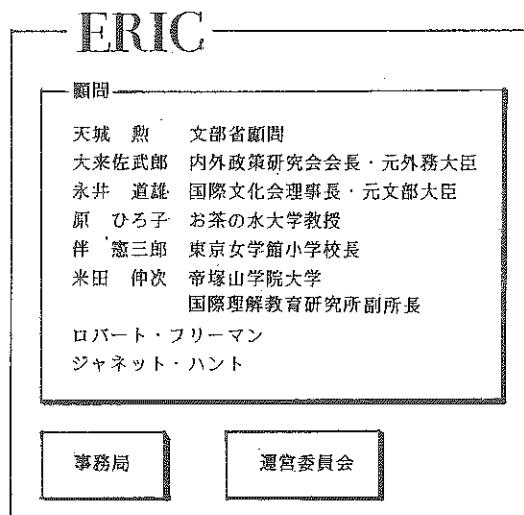
社会教育の場では、どのように扱ったらいいのだろうか?

こうした思いや悩みに応えるために、教師、研究者、
民間団体の有志が集って開設したのが当センターです。

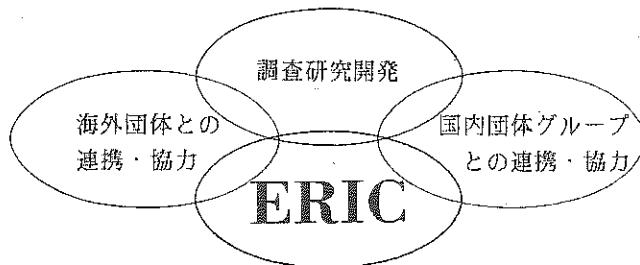
**CHILDREN NEED
FUTURE**

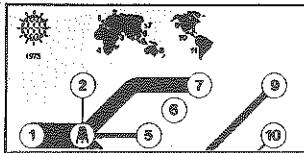


○ERICの組織



○ERICの特徴





○ERICのプログラム

- ①資料室：各種資料を集めた資料室の運営
- ②教材開発
 - › 翻訳・出版：欧米などで長年研究・実践されてきた国際理解教育の資料を、プロジェクト・チームを編成し日本独自の教材に編集・開発
 - › ニュースレター：資料・情報を提供、国際理解教育実践者の間の情報交換とネットワークづくりの媒体
 - › レッスンパンク：テーマ・項目別に教案及び生徒用プリントなど1回の授業に必要な資料を1セットにまとめた教師用の授業（レッスン）案。
- ③研修および講師・指導者の派遣
 - › 国内研修：講演会や参加型の研修会等を開催
 - › 海外研修：教育の国際化をテーマとする海外研修
 - › 研修コース：各教育委員会・教育センター、校内、各教科、環境・人権教育、海外研修の事前・事後等の研修会に講師派遣
- ④調査・研究
 - › 姉妹学級交流

○1991年スケジュール

- | | |
|-----|----------------------|
| 3月 | 第3回ERIC海外研修（米国・カナダ） |
| 8月 | 第4回ERIC海外研修（オーストラリア） |
| 10月 | 第2回ERICグローバルセミナー |
| 随時 | 研修コース |

○ERICに参加するには...?

- › ERICの各種研修会への参加
- › 教材開発プロジェクト・チームのメンバーとして参加
- › レッスンパンクの追試と実践報告
- › ニュースレターに情報やメッセージの発信
(情報コーナーには、「こんなことしています」「お知らせします」「一緒にやりませんか」「情報さがしてます」「わたしはこう思うのですが...」「海外情報」等の欄があります。)
- › ERICモニター募集中
(ERIC出版物の割引特典あります)

○ERICの最新資料・出版物

- ロバート・フリーマン講演録（英文150円、翻訳200円）
- ジャネット・ハント講演録（英文150円、翻訳200円）
- ERICグローバルセミナー研修会実践事例10選（600円）
- ERICグローバルセミナー講演会収録カセット（500円）
- 教室の中の世界：国際理解教育の目的・方法・ニーズ等に関するアンケート調査報告書（1990.10）（300円）
- ERICグローバルセミナー講演会・研修会収録ビデオ（製作中）

○翻訳出版予定

WORLD STUDIES 8-13: A TEACHER'S HANDBOOK (イギリス)

平和・人権・異文化・環境・開発・未来教育等を総合的・体系的にとらえ、地球市民として生きるための知識・姿勢・技能を身につける学習のねらい、基本概念、方法論、教科別の工夫等、理論と80を越える具体的な授業案の事例を収めた教師の力強いハンドブック。

NEW WAVE GEOGRAPHY (オーストラリア)

パンダを題材とした自然保護やバービー人形を利用した多国籍企業など、難民、食糧、環境、人権、貧困、観光等をテーマに、イラストや写真、地図、まんがを豊富に使い、現代社会における地球規模の事象や課題を、こどもたちが理解できるよう丁寧に楽しく説明。こどもたち自身が解決策を模索できるような指導が展開されている地理の教科書。

FOOD FIRST CURRICULUM (アメリカ合衆国)

食糧を通して見えてくる世界のしきみ、問題解決に向けての対策をわかりやすく、しかも楽しく提示。こどもたちが自主的に考え、問題の解決に参加するための知識・姿勢・技能を幅広い教科・領域で学習できるように創意工夫した教師用のテキスト。



マスコミも注目！

ERICの活動やグローバルセミナーの様子が、全国紙・地方紙・教育関係の新聞や雑誌等で紹介され、電話での問い合わせが相次ぎ、来訪者も増えています。NHKモーニングワイドも講演会の様子やフリーマン氏のインタビューを紹介しました。(1990.10.19)

国際理解に役立つ

関連や
300の授業案を用意

先生も頑張ります 国際理解教育

教員向けに講演会

海外協力の人材育成急務

外国人講師招き 市民

文化センターが本音

各民族文化の民族性を尊重する態度をもつて、国際理解、尊重、開拓精神を持つ人材育成、国際理解教育の実現をめざす活動を展開する。また、国際理解教育の実践を通じて、国際理解教育の意義を深めることで、世界中の文化をよりよく理解することができる。

日本は、世界の文化多様性を尊重する立場から、国際理解教育の実践を通じて、世界中の文化をよりよく理解することができる。

日本

日本は、世界の文化多様性を尊重する立場から、国際理解教育の実践を通じて、世界中の文化をよりよく理解することができる。

国際理解 教育を

国際理解

国際理解